

初めて
倉敷インター降りてみた!!



美観地区
右って書いて
あるでえー。

ぶっかけうどん



茹であげたうどんに薬味や具材を
乗せて甘辛いタレを
ダイレクトに「ぶっかけ」た
倉敷を代表するソウルフード

昭和30年代、倉敷駅前で夫婦饅頭の店「ふるいち」の店主が、ぶっかけうどんを食べながらマージャンに興じているときにぶっかけうどんの専門店を思いつき、店を開いたところ繁盛しました。そのため「ぶっかけうどん」という名称で現在の形式を作り上げたのはふるいちが最初ということとなります。さらに同店は「倉敷名物」として「ぶっかけうどん ふるいち」の店名でチェーン展開し、倉敷市はもちろん岡山県や周辺地域においても名物料理としての知名度を高めました。岡山県は南隣の香川県との結びつきが強い上、近年の讃岐うどんブームにより讃岐うどんを標榜する店が増えたが、ぶっかけうどんだけは倉敷風で提供している店も多くあります。

コシと食感、甘辛さと
七変化の味わいが絶妙

ラーメン評論家・大崎 裕史氏

うどんイベントの活躍で全国に知られ、モンドセレクション受賞で世界へ飛躍する倉敷名物「ぶっかけ」。柔らかい口当たりの割りにコシが強いのが特徴。唇でなめらかさを感じて、歯応えてコシを体感、喉越しもよく、ひと囃りで三度おいしい。かけうどんやざるとも違った甘辛いつゆがうどんを引き立て、後を引く旨さでクセになる。刻み海苔、天かす、青葱、卵黄、すりごまが入っているのでよく混ぜて食べると口に入れるたびに味わいが変わるのも実に楽しい。



おすすめ
Photo
スポット



大原美術館

倉敷紡績社長の倉敷孫三郎が画家児島虎次郎の業績を記念し、その収集作品を展示するため、昭和5年(1930)に建てた日本初の西洋近代美術館。

なんかある
かなあ?



倉敷館

紡績業が盛んであった大正6年(1917)に倉敷町役場として建てられた。伝建地区の中心に位置し、シンボルとなっている洋風建築。



語らい座 大原本邸

江戸後期から綿綿仲買商、米問屋、地主として村政を牽引し、明治以降、倉敷紡績の社長を務め、数々の西洋建築を残してきた大原家の邸宅。



倉敷川畔伝統的建造物群保存地区

江戸時代に干拓地からの富を背景に政治・経済の中心地となった。江戸期の商家群と明治以降の西洋建築が美しく調和する町並みが残る。



瀬戸大橋を望む

つぎは
どけー行く?





日本遺産
倉敷市



一輪の綿花から始まる倉敷物語

倉敷・船穂地域

高梁川東西用水取配水施設

渇水期の紛争や水害対策のため、大正期に行われた高梁川河川改修に伴い、建設された農業用水の取配水施設。石張、鉄筋コンクリート造。

一の口水門

綿の売買で繁栄した玉島港と高梁川を結び、高瀬舟による輸送を容易にするため、江戸初期に整備された運河「高瀬通」の起点となる閘門式水門。

美観地区
来たよー!!

山陽自動車道
新倉敷駅

倉敷

国道2号

茶屋町地域

磯崎眠亀記念館

明治期にイ草を原料に錦莞莖を生み出し、繊維産業界で活躍した磯崎眠亀。その功績を記念し、住居兼作業場を改築して資料を展示している。

錦莞莖

明治11年に茶屋町の磯崎眠亀が発明した紋様を織込んだ花莖。国内外の博覧会で多くの賞に輝き、海外への主要輸出品となった。



玉島町並み保存地区
旧柚木家住宅(西栗亭)
玉島

水島地域

板敷水門

江戸後期の岡山藩による干拓の際に使用された排水水門。「嘉永二年夏六月造」の銘が刻まれており、干拓の歴史を現在に伝える。

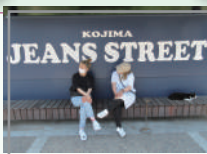
児島地域

旧野崎家住宅

江戸後期、干拓により新田五ヶ村の名主を拝命した野崎武左衛門の邸宅。敷地面積は約3000坪で、建物延床面積は1000坪に及ぶ。

繊維製品(児島ジーンズストリート)

江戸期の綿花栽培を基礎に生産が始まり、明治期以降、学生服、ジーンズ、帆布、畳縁など様々な製品が生産され、品質は世界をリードしている。



下津井町並み保存地区
むかし下津井回船問屋
下津井節

児島地域

蓮台寺

江戸期には岡山藩主池田家の厚遇を受けるとともに、讃岐金毘羅大権現との両参りで賑わい、門前町では小倉織・真田紐などがもてはやされた。

由加神社

神仏分離令により、明治5年に由加神社となったが、それまでは瑜珈大権現として、金毘羅との両参りで賑わった。

～和と洋が織りなす繊維のまち～

倉敷地域(駅周辺)



倉敷川畔伝統的建造物群保存地区

・大原美術館

倉敷市中央1-1-15 営業時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/毎週月曜日(冬季休館あり) お問い合わせ/086-422-0005

・倉敷館

倉敷市中央1-4-8
利用時間/9:00～18:00
お問い合わせ/086-422-0542
(観覧案内所)

・倉敷考古館

浜田屋小山家の蔵を改装し、吉備の考古資料を展示する博物館として昭和25年に開館。東壁一面の「なまこ壁」が特徴で、代表的な土蔵建築。

・新児島館(仮称)

大原孫三郎が頭取を務めた旧第一合同銀行の倉敷支店。建築家薬師寺主計が設計し、大正11年に建築された倉敷を代表する西洋建築。大原美術館の新展示館となる。

・有隣荘

昭和3年に建てられた大原家の別宅。薬師寺主計が設計、伊藤忠太、児島虎次郎も建築に関わっており、和洋折衷の優美な外観が特徴。
倉敷市中央1-3-18
お問い合わせ/086-422-0005
春・秋の特別公開以外は外観のみ見学可能



・倉敷アイビースクエア

明治期、旧代官所の跡地に建設された倉敷紡績所の工場。往時の紡績工場の建物が残り、現在もリノベーションによって複合観光施設として活用されている。
倉敷市本町7-2
お問い合わせ/086-422-0011(代)



・倉敷民藝館

江戸後期の米蔵を改装し、昭和23年に日本で2番目の民藝館として開館した。倉敷の古民家再生の第1号であり、数多くの民芸品が収蔵、展示されている。

・倉敷屏風祭

江戸期、阿智神社の祭礼に始まる。各家が通りに面した格子戸を外し、屏風や花を生けて人々をもてなす。毎年秋祭りに合わせて開催されている。

・ばらずし

倉敷の商家では、祭りの日に近隣の人や知人を自宅に招き、瀬戸内の豊富な海の幸と旬の野菜を鮮やかに盛り合わせた「ばらずし」を作って振舞った。

※状況により各施設の開館時間などは変動いたします

400年前まで、現在の倉敷市の平野部一帯は「吉備の穴海」と呼ばれる一面の海でした。江戸時代から始まった干拓によって海は陸地になり、そこで塩分に強い綿やイ草などの作物が栽培されました。それらを原料として倉敷の繊維産業は花開き、現在では製品出荷額日本一の「繊維のまち」になっています。

・語らい座 大原本邸

倉敷市中央1-2-1 営業時間/9:00～17:00
休館日/月曜日・年末年始 お問い合わせ/086-434-6277



・倉紡記念館

倉敷紡績の時代、原綿の倉庫として使われたレンガ造りの建物。昭和44年の創設80周年に改装され、記念館となった。

・大橋家住宅

江戸後期、干拓事業や金融業などで財をなした大橋家の邸宅。倉敷を代表する商家の建築で往時の富の大きさを感じさせる。

・井上家住宅

江戸時代初期から倉敷村の村役を担った井上家の邸宅。300年前に建てられた伝建地区内最古の建築、商家の原型を残す。

・楠戸家住宅

「はしまや」の屋号を持ち、明治2年の創業以来、現在も呉服店として営業を続ける明治期を代表する商家建築。



・素隠居

江戸時代、年を取り秋祭りに参加できなくなった老人が面を作らせ、代わりに参加させたことに始まる。団扇で叩かれると健康になるとされる。

・民芸品

大原孫三郎が民芸運動を支援したことで倉敷に民芸文化が花開き、酒津焼・羽島焼・倉敷ガラス・織通など数多くの民芸品が生まれた。

